

Rinnai システムキッチン用[ビルトインコンロ]

設置説明書

この機器の設置には資格が必要です。

型 式	型式の呼び	トッププレート のタイプ	トッププレート の幅	備 考
RB32AM5H2S	RB32M5HS-W	ホーロー	60cm	片面焼グリルタイプ
RBX60M5SBW				

◆設置される方へのお願い

- この機器を安全に正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された設置を行ってください。
- 設置が終わったら **6 設置後の点検確認** のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。
- 設置終了後は、この「設置説明書」を「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。

1	安全に正しく設置していただくために	ページ 2～5
2	寸法図	6
3	同梱部品と設置後不要となる部品の確認	7
4	コンロの設置	8～14
5	ガス配管工事・ガス配管接続工事	15
6	設置後の点検確認	16
7	試点火および試運転	16



JS0056-053×01 (00)



190600●

07000005274950

(工場管理)

1 安全に正しく設置していただくために

機器を安全に正しく設置していただくためや、設置作業や使用者への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの説明書では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について次のような意味があります。



分解禁止



一般的な禁止



一般的な警告・注意



換気必要



必ず行う

特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

警告



■この機器を安全に正しくご使用いただくために、この「設置説明書」をよく読み、指定された設置を行う



■設置は必ず、この「設置説明書」・「火災予防条例」・「ガス機器の設置基準および実務指針」（一般財団法人日本ガス機器検査協会刊）に従う

変則的な設置をすると事故や火災の原因になります。



■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

金属管や金属可とう管などによる機器へのガス配管接続工事・取りはずし工事は、必ず有資格者が行ってください。



注意

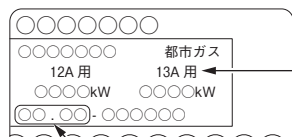


■供給ガスと設置する機器の銘板に表示してあるガス種（ガスグループ）が一致していることを確認する

合っていない場合、そのまま使用すると火災や不完全燃焼により、一酸化炭素中毒になったり、異常点火でやけどしたりすることがあります。また、故障の原因にもなります。

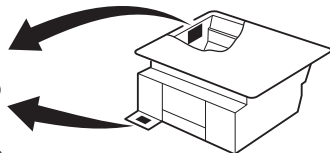
銘板は機器内左後方側面と前面の電池ケースふた裏面に貼ってあります。

〈例〉銘板（12A・13Aの場合）



ガス種
(ガスグループ)

製造年月 (00.00 ← 製造月を2けた表示)
← 製造年(西暦)を2けた表示



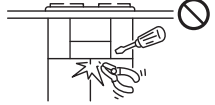
⚠ 注意



分解禁止

■絶対に分解・修理・改造は行わない

設置で必要なところ以外は、絶対に分解・修理・改造は行わないでください。
一酸化炭素中毒のおそれがあります。また、ガス漏れ・火災・けが・作動不良の原因になるおそれがあります。



■業務用として使用しない

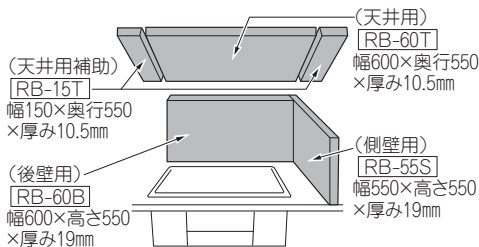
この機器は家庭用専用ですので、業務用のような使いかたをすると、機器の寿命が極端に短くなります。



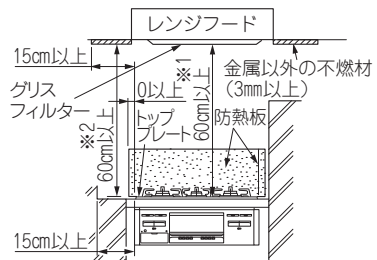
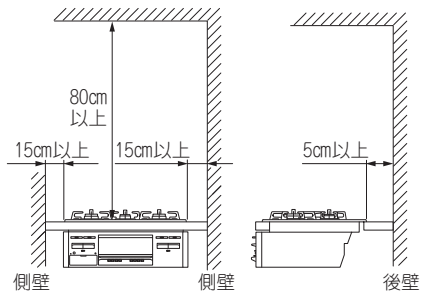
■設置するときは、可燃物との距離を確実に離す

- 火災予防条例で定められています。必ず守ってください。
距離が近いと火災の原因になります。また、可燃性の壁にステンレス板などを直接取り付け使用しても、熱伝導で長年の間に可燃物が炭化し、火災になることがあります。
- 周囲に可燃物（木製の壁・棚など）のある場合は、次のようにしてください。
トッププレートより上の側面は15cm以上、後面は5cm以上、上部はトッププレート上面より80cm以上離して設置します。
- 可燃性の壁（ステンレス板などを貼り付けた可燃性の壁も含む）から側面は15cm以上、後面は5cm以上、また、上部はトッププレート上面から80cm以上離して設置できない場合は、壁面に別売の防熱板を取り付けてから設置します。調理台・流し台の側面などが可燃性で機器のトッププレートより高い場合も、流し台側面を保護してください。

防熱板（別売）



※防熱板については、お買い上げの販売店、または施工店にお問い合わせください。



- ※1. レンジフード以外の場合は、80cm以上
- ※2. 不燃材がない場合は80cm以上

- 前記の設置基準は、共同住宅など(戸建て専用住宅・共同住宅・店舗併用住宅の住宅部分であり、営業用および一般事業所の従業員食堂・学校・病院の給食用等の以外のもの)の用途の建築物であり、また排気方式が、各住戸の厨房用ダクトが単独排気方式の場合に適用されます。

⚠ 注意



■設置するときは、下記の項目に注意する

〈法律・法令など〉

- この機器を設置する場所には、建築基準法や火災予防条例に定める防火措置を施す必要があります。
- この機器を設置する台所が、建築基準法に定める（内装制限を受ける調理室）に該当する場合は、台所全体についても内装材の制限を受けます。

〈設置場所など〉

- 車両・船舶には設置しないでください。
- ガス工作物・電気工作物などの他の設備に悪影響を与えない位置に設置してください。
- 引火性の危険物（ガソリン・灯油・ベンジン・接着剤など）や、業務用薬品（アンモニア・硫黄・塩素・エチレン化合物・酸類などの腐食性薬品）を周囲で保管したり、取り扱う場所には設置しないでください。
- 十分に換気のできるところに設置してください。
- 水のかかるところには設置しないでください。
- 水気の多いところや湿気の多いところに設置しないでください。
- 水平で安定した場所に設置してください。

〈周辺環境など〉

- 湯沸器や樹脂製の照明器具の下へ設置しないでください。
- 棚の下など落下物の危険のあるところには設置しないでください。
- 排気口をステンレスの水切りカバー（水返しカバー）などでふさがないでください。
- 強い風が吹き込む場所や、機器本体後方から風が吹き込む場所には設置しないでください。（点火しなかったり、温度センサーや立消え安全装置が正しくはたらかないことがあります。）
- 保守メンテナンスをする場所が確保されていることを確認してください。

設置後、トラブルの原因になったり、点検・修理に支障をきたしたりします。

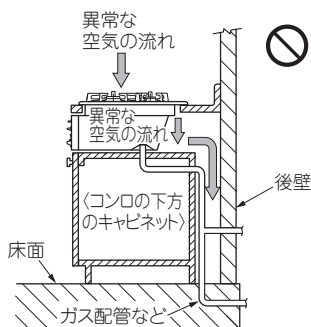
設置場所を決めるときは、お客様とよく相談してください。



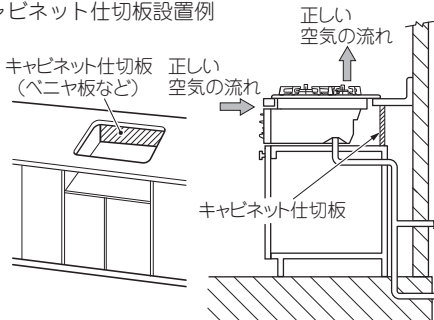
■キャビネットを背板などでふさぐ

コンロ後方がふさがれていない場合は、ベニヤ板やアルミテープなどによりふさいでください。

コンロ後方がふさがれていないと、コンロと後方空間や外気との間で異常な空気の流れが起こる場合があります。炎がもぐりこんだり、消火したり、不完全燃焼することがあります。



キャビネット仕切板設置例

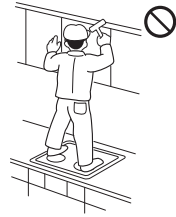


⚠ 注意



■ 機器の上に乗らない、傷付けない

機器の上に絶対に乗らないでください。トッププレートが破損し、非常に危険です。
トッププレートに強い衝撃を与えたり、過度な荷重をかけたりしないでください。トッププレートの破損の原因になります。



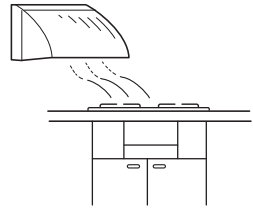
換気必要

■ 十分な換気設備がある場所に設置する

この機器は、レンジフードなどでの換気が必要です。
設置するガス機器および同一室内に設置してある他の機器のガス消費量に対し、十分な換気設備がある場所に設置してください。

換気が十分でないと湿気が多くなり、機器の故障の原因になります。

ただし、室内給気式 (FE・CF) 給湯器・ふろがまを使用している場合は、レンジフードなどを回すと排気ガスが逆流して、一酸化炭素中毒の原因になるおそれがあります。



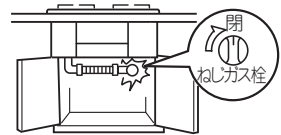
■ 機器設置の際には、必ず手袋をする

けがの防止になります。



■ 設置後は、必ずガス栓（ねじガス栓）を閉める

機器のガス栓（ねじガス栓）は機器下方または、となりのキャビネット内にあります。
ガス事故防止のため、必ず行ってください。



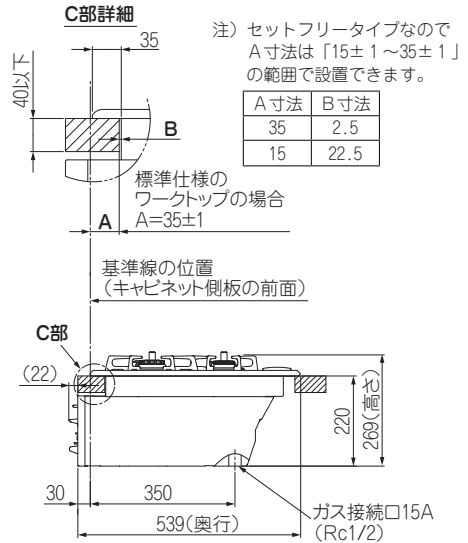
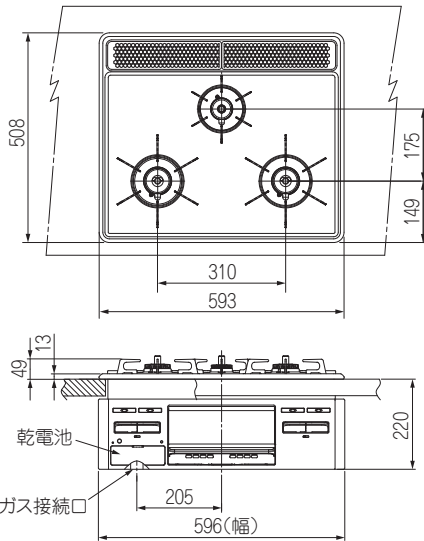
- 機器本体をタイルやモルタルで、塗り込まないでください。
- 耐久性などの点から、できるだけ湿気の少ないところを選んでください。
- ワークトップ材は、熱硬化性樹脂化粧板 (JIS・K・6903) またはこれと同等以上の材料をお使いください。
- 表面がニス引きのものは、変色するおそれがあるので、使用しないでください。
- 本機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取りはずしてください。
そのまましておきますと、思わぬ事故になります。

お願い

2 寸法図

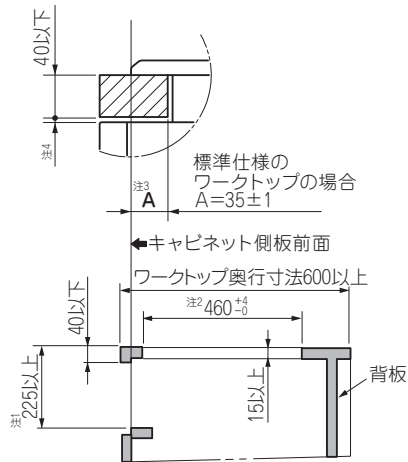
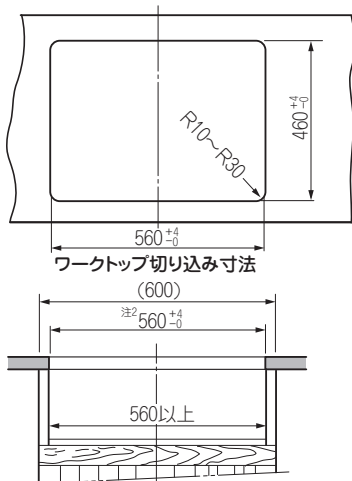
1. 外形寸法図

(単位：mm)

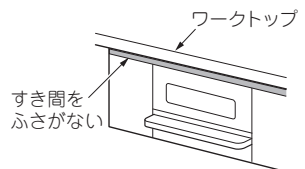


2. キッチン組み込み寸法図

(単位：mm)



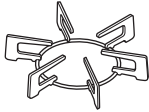

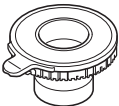


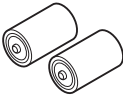

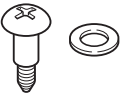
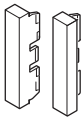

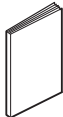
- 注1 高さ寸法は、ワークトップ上面からの寸法。
 注2 ワークトップ開口寸法。公差内になるよう加工する。
 注3 A寸法は、15～35mmの範囲で設置可能。
 注4 機器設置時において、空気が流れるようにワークトップ下面(パッキンなどを含む)と本体上面とのすき間を必ず3mm以上確保する。すき間を化粧板などで閉塞すると、不完全燃焼の原因になります。



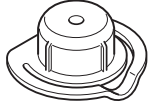
3 同梱部品と設置後不要となる部品の確認

1. 同梱部品の確認

① 部品の不足がないことを確認する。

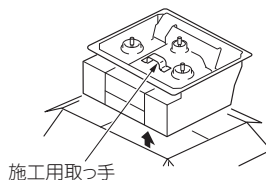
部品名 形状	ごとく大 × 2 	ごとく小 	バーナーキャップ大 × 2 	バーナーキャップ小 	排気口カバー 
部品名 形状	単1形マンガン乾電池（お試用） 		グリル焼網 	トッププレート固定ねじ × 2  (パッキン付)	
部品名 形状	エンドピース 	取扱説明書(保証書付) 	設置説明書 	グリル庫内に収納しています。 トッププレート左後部にテープ止めしています。	

2. 設置後不要となる部品の確認

部品名 形状	インレットキャップ 
-----------	---

開梱時の注意事項

- 施工用取っ手を持って、機器を段ボール箱より取り出してください。



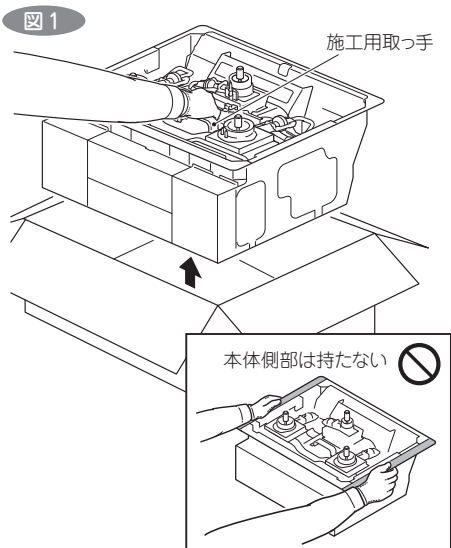
4 コロの設置

1. 開梱・機器の取り出し

① 開梱して機器を取り出す。 **図1**

● 輸送のため、各部品にあて紙や包装部材があるので、全部取り除く。

※必ず、施工用取っ手を持ってください。本体側部を持って機器を持ち上げると、本体側部が変形して、トッププレートが浮き上がる原因になります。



② グリルとびらを引き出して、グリル庫内のグリル焼網・グリル皿を取りはずす。

図2

図3

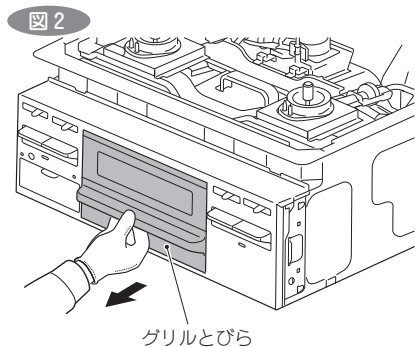
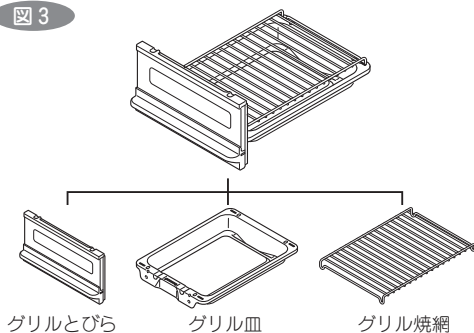


図3



2. コンロの設置

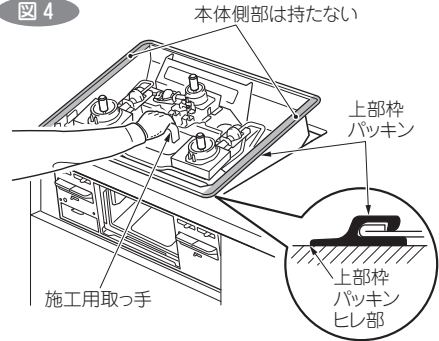
① コンロを組み込む。 **図 4**

- コンロの施工用取っ手を持ち、前面を先に挿入して、前パネル・つまみなどに傷が付かないよう注意しながら、コンロを組み込む。

※必ず、施工用取っ手を持ってください。本体側部を持って機器を組み込むと、本体側部が変形して、トッププレートが浮き上がる原因になります。

※バーナー・バーナー支えなどの燃烧部品を持って組み込むと、燃烧不良の原因になります。

図 4



- コンロを組み込む前に、キャビネットが背板などでふさがれているか確認してください。(P4参照)

お願い

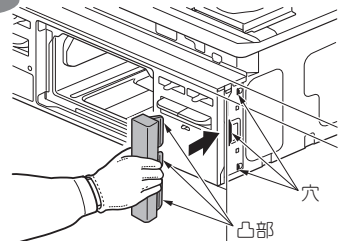
- 上部枠パッキンが本体からはずれていないか確認してください。
- 必ず、上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか確認してください。(特にコーナー部)丸まっている場合は、丸まりを直してください。

3. エンドピース・グリルとびら・グリル皿・グリル焼網の取り付け

エンドピース

- エンドピースの上下・中央の凸部を本体側面の穴に差し込む。 **図 5**
- ※エンドピースは左右共通です。

図 5

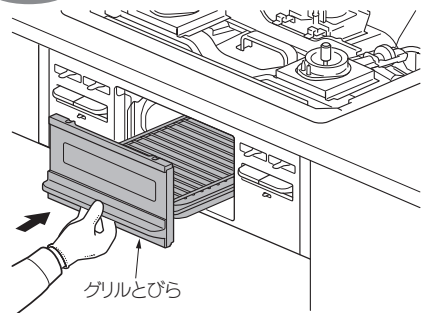


※図はエンドピース(右)を示す。
エンドピース(左)も同様に左側へ取り付ける。

グリルとびら・グリル皿・グリル焼網

- グリルとびら・グリル皿・グリル焼網を機器本体に取り付ける。 **図 6**

図 6



4. コンロの固定

- ① コンロをワークトップに固定する。

図7

- コンロを固定する前に、**コンロの前面とキャビネットとびらの前面が合うようにコンロの位置を調整する。**
- 本体側面についている止めねじ4本を回して、コンロを動かない程度に固定する。

※締め込みすぎると、ワークトップを壊したり、コンロが変形したり、パッキンの浮き上がりによるトッププレートのひずみや動きの原因になります。

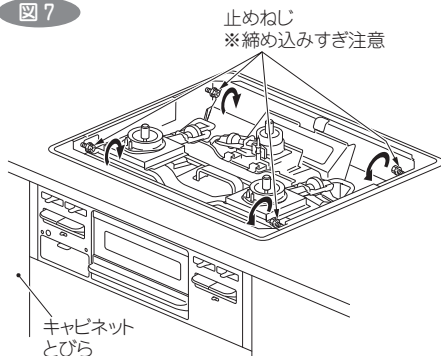
〈使用工具〉

プラスドライバー・スパナ（呼び8）・ペンチ

- スパナがない場合は、ペンチ・プライヤー・ラジオペンチなどで止めねじの六角部をはさんで、ねじを回す。

※工具を使用する際には、バーナーなどの部品に傷を付けないようにする。

図7



5. トッププレートの取り付け

- ① トッププレートを取り付ける。

図8

図9

- トッププレートの手前を本体手前のツメ（3カ所）に引っ掛け、上部枠パッキンにはめ込む。
- ※トッププレートを引っかけるツメ（3カ所）は変形させないでください。（先端を開かないでください。）

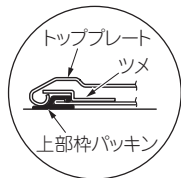
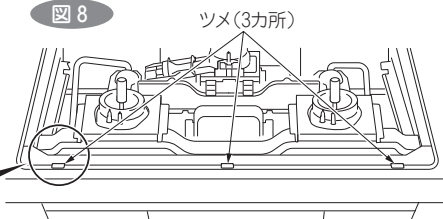
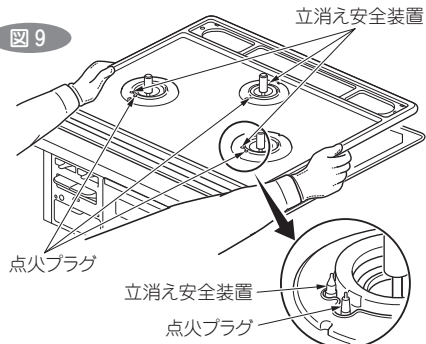


図8



- 点火プラグと立消え安全装置をトッププレートの穴へ通すように、取り付ける。
- ※点火プラグと立消え安全装置の部分で、トッププレートの乗り上げがないことを確認する。

図9

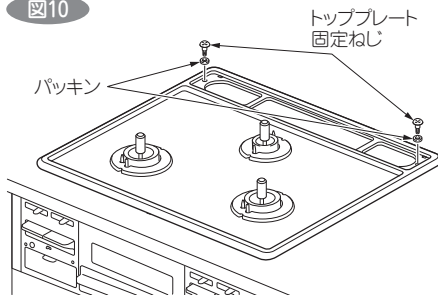


- ② トッププレート左後部にテープ止めしてある
トッププレート固定ねじを使用して、トッププレートを固定（2カ所）する。 **図10**

お願い

- バーナーや立消え安全装置を傷付けたり、点火プラグを曲げたりしないよう注意してください。

図10

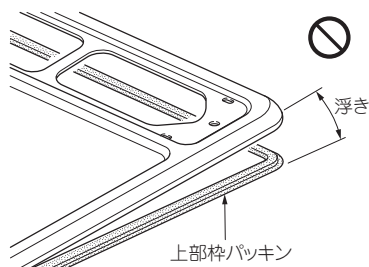


⚠ 注意



■ トッププレートは誤った取り付けで使用しない

トッププレートが浮いたり、傾いて取り付けられた場合、トッププレートと全バーナーの位置関係がずれ、点火しないなどの動作不良の原因となります。



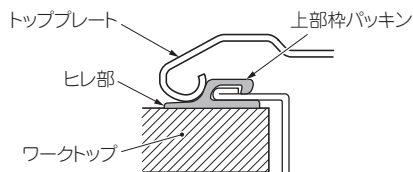
■ トッププレートは確実に取り付ける

■ トッププレートの取り付けは、浮きがないように上部枠パッキンに確実にめ込む

取り付けが難しい場合は、上部枠パッキンを本体側に押し込んでなじませてください。

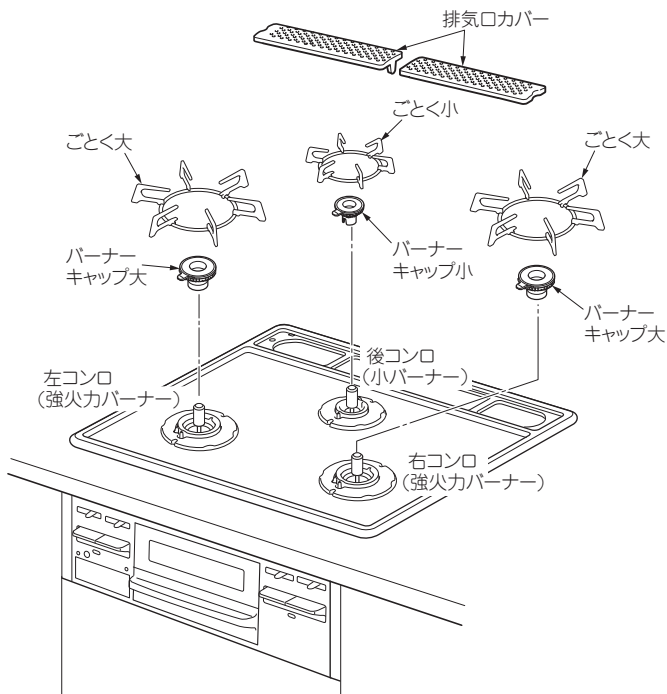
■ 上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか必ず確認する

ヒレ部が丸まっている場合は、丸まりを直してください。（特にコーナー部）



6. 部品の取り付け

図11



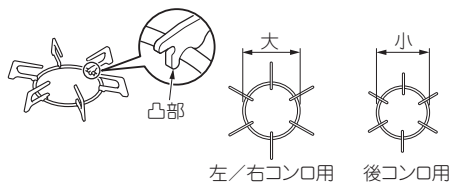
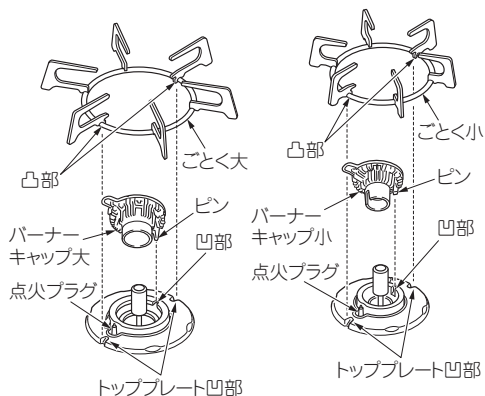
- バーナーキャップ・ごとくは、下図のように正しく取り付けます。

ごとく

- トッププレート前後の凹部2カ所にごとく内側の凸部2カ所を入れて、正しく取り付けます。

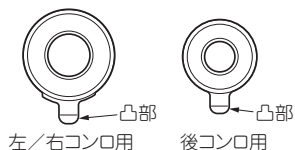
左/右コンロ (強火力バーナー)

後コンロ (小バーナー)



バーナーキャップ

- バーナーキャップの凸部を手前にして、バーナー本体奥の凹部にバーナーキャップのピンを入れて、正しく取り付けます。

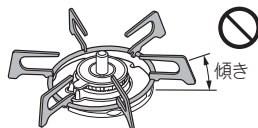


⚠ 注意



■ごとくは誤った取り付けで使用しない

誤った取り付けをすると鍋などが不安定になり、傾いたり、倒れたりします。

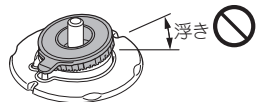


誤った取り付けの例

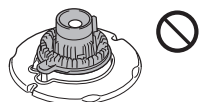


■バーナーキャップは誤った取り付けで使用しない

- バーナーキャップを正しく取り付けないと、点火しない場合があります。
- 炎のふぞろいや逆火で不完全燃焼・一酸化炭素中毒のおそれやバーナーキャップが変形する場合があります。
- 機器の中に炎がもぐりこんで焼損する原因になります。



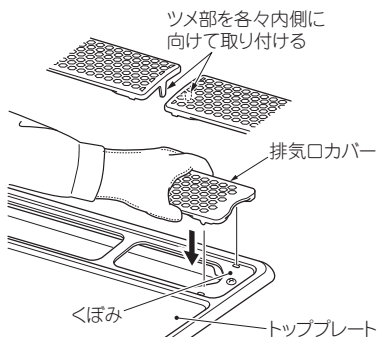
バーナーキャップの浮き



バーナーキャップの裏返し

排気口カバー

- トッププレート後部のくぼみに2つの排気口カバーのツメ部を各々内側に向けて、取り付ける。
- ※傾きのないことを確認する。

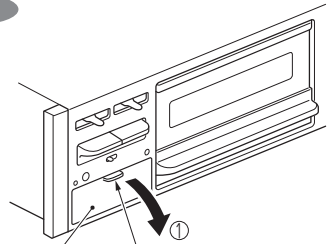


7. 乾電池の取り付け

- ① 電池ケースふたのつまみを下へ押し、手前に開く。 **図12**

※あまり強く押さないでください。電池ケースふたがはずれることがあります。

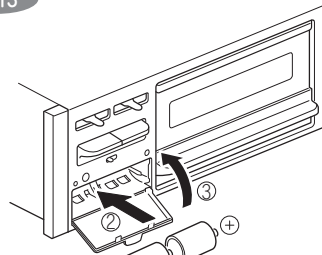
図12



電池ケースふた つまみを下へ押し、手前に開く

- ② 単1形マンガン乾電池（お試し用、1.5V）2個を右図のように⊕⊖の向きを確認して、奥まで確実にはめ込む。 **図13**
- ③ 電池ケースふたを元に戻す。

図13



単1形マンガン乾電池
（お試し用、1.5V）2個

8. ガス配管工事・ガス配管接続工事

- **5** ガス配管工事・ガス配管接続工事 を参照して、ガス配管工事およびガス配管接続工事を行う。
- 必ず、ガス漏れ検査を行う。

⚠ 警告



■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

- 接続工事・取りはずし工事は、必ず有資格者が行ってください。
有資格者がいない場合、ガス事業者の指定する工事店にご依頼ください。
- 接続の際は、ガスシール材を必ず使用してください。
 - ガス栓（ねじガス栓）を必ず取り付けてください。
 - 接続完了後、ガス漏れのないことを確認してください。
 - 取りはずした部品は、必ず取り付けてください。

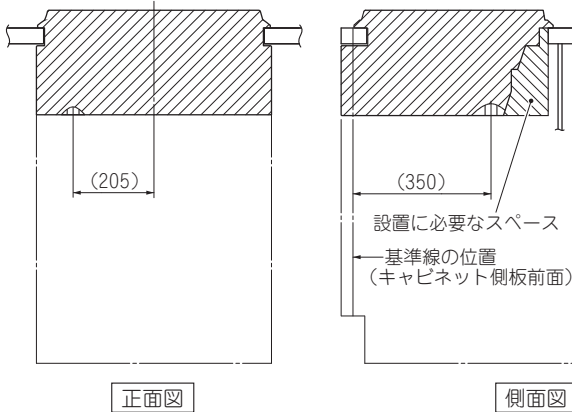
① 機器へのガス接続に必要な資格について

- 都市ガス用機器の場合、内管工事士・簡易内管施工士・ガス機器設置スペシャリスト・ガス可とう管接続工事監督者のいずれかの必要な資格を有する者が施工すること。
 - LP ガス用機器の場合、液化石油ガス設備士の資格を有する者が施工すること。
(ガス機器設置スペシャリストは「燃焼器用ホース」の交換のみ施工可能)
- なお、液化石油ガス設備工事を行う事業者は、事業所ごとに所在地を管轄する都道府県知事に「特定液化石油ガス設備工事事業開始届書」を提出する必要があります。

② コンロの配管方法

- インレットキャップをはずす。
 - ガス配管接続は、金属可とう管（金属フレキシブルホース）・機器接続ガス栓を使用する。
 - 配管周囲のすき間をなくすように、配管キャップなどを取り付ける。
- ※ すき間が大きいと消火したり、炎がもぐりこんだりして異常過熱の原因になります。

(単位：mm)



設置施工例図

6 設置後の点検確認

●チェックリストに基づいて確認する。

点検項目	点検内容	参照項目	チェック	
機器およびその周辺	ガス種	使用するガス種に適合しているか。(銘板確認)	1	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分か。	1	
	水平設置	水平に設置されているか。	1	
	安定設置	ガタツキはないか。	1	
	換気設備	十分換気できる場所に設置されているか。	1	
キャビネット	キャビネットに背板があるか(機器後方に穴があいていないか)	1		
ガス配管接続工事	ガス漏れはないか。	5		
ラベル貼付	接続具の設置者ラベルおよび連絡先のステッカーを貼付したか。	—		
同梱部品	部品の不足はないか。また正しく取り付けられているか。	3 4		
その他	グリル庫内に包装部材が残っていないか。	—		

7 試点火および試運転

① 試点火および試運転

●正しく設置されていることを確認してから、機器のガス栓(ねじガス栓)を開き、取扱説明書に基づき、点火および作動の確認を行う。

※こんなときは故障ではありません。

鍋などの調理道具を置かずに試点火させると、過熱防止装置作動エラーが作動し、ブザー音とともに炎が消火することがありますが、異常ではありません。

② 試運転終了後の処置

●試運転終了後は、必ず機器のガス栓(ねじガス栓)を閉め、乾電池を取りはずす。

⚠ 注意



■試運転終了後は、必ずガス栓(ねじガス栓)を閉める

③ お客様への説明

- 必ず、取扱説明書に基づいて、機器の取り扱いを説明する。
- 必ず、取扱説明書の保証書に必要事項を記入のうえ、保証内容を説明する。
- 取扱説明書(保証書付)、設置説明書の保管のお願いをする。

製造者

リンナイ株式会社



JS0056-053×01 (00)

190600

07000005274950

(工場管理)